

## 令和3年度 「かかぢ野外活動塾」事業報告書

## 1 事業内容

## (1) 趣 旨

児童養護施設に入所する児童生徒を対象に、青少年の家周辺で実施する自然体験活動を通して、感動体験や成功体験を得させることにより、自己肯定感・自立心等の社会を生き抜く力を育成する。

## (2) 実施内容・実施期日・参加人数

- ・第1回：海水浴・ウィンドサーフィン等 令和3年 8月 2日・ 3日 参加23名（小百合ホーム）
- ・第2回：所内オリエンテーリング等 令和3年 8月17日・18日 参加 8名（光の園）
- ・第3回：鍋料理づくり・千灯岳登山等 令和3年11月 6日・ 7日 参加11名（森の木）
- ・第4回：千灯岳登山等 令和3年12月11日・12日 参加12名（森の木）
- ・第5回：鍋料理づくり・サイクリング 令和4年 1月 8日～10日 参加44名（山家学園）

※第6回：スキュー体験・雪遊び（2/5・6）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

(3) 場 所 香々地青少年の家、高汐海岸、千灯岳、長崎鼻

(4) 参加人数 合計98名（小学生59名、児童養護施設職員39名）

## 2 事業の様子



野外炊飯



千灯岳登山



たき火



思い出色紙づくり

## 3 成果と課題

## (1) 成 果

- ・昨年までは、実施日程及び内容等を青少年の家が作成し、児童養護施設に募集をかける方式で事業を実施してきたが、今年度は各児童養護施設が実施日程を決定し、青少年の家職員と相談しながら実施内容を決定する方式に変更した。結果、昨年度は1施設のみの参加であったが、今年度は4施設の参加があった。コロナ禍ということもあり、今年度の方式の方が児童養護施設にとっては参加しやすいのではないかと考える。
- ・昨年までの野外活動塾の取組を生かし、感動体験、成功体験を通して自己肯定感を高めることを目的とし、体験活動を計画した。アクティビティーは海水浴、登山、サイクリング、アスレチック等様々だったが、国立青少年教育振興機構が作成したIKR調査用紙（簡易版）を用いた調査において、活動前後で「生きる力」の数値が有意に向上する結果が得られた。
- ・今回はアクティビティーを詰め込まず、自由に過ごせる時間を増やすことを意識した。参加児童生徒はこの時間をバスケットボールやアスレチック等、自分たちで工夫して過ごしており、感想からも大変好評であったことから、効果的であったことが伺えた。
- ・振り返りでは、色紙にインスタントカメラ（チェキ）で撮影した写真を貼ったり思いでコメントを記入したりする「思い出色紙づくり」を行った。事後アンケートにも「思い出をまとめることができ嬉しかった」という感想が多数あり、自己の成長や仲間の良さを振り返るのに有効であった。

## (2) 課 題

- ・施設の方との話の中で、コロナ禍の影響により体験活動の場が少なくなっていることが伺えた。今後も子どもたちに継続して体験活動を提供できるよう、各施設の状況及び要望を丁寧に把握し、連携を深めながら事業を実施することが大切である。